



ガラスリサイクルプラント

### 廃ガラスリサイクル事業

## トイエイ

(東浦町)



### 今津 昭社長

「廃棄処分しかないものが、リサイクル次第で幅広い用途の可能性を秘めている。将来的には光の大学などと連携して研究し、安全な環境に暮らしていることを積極的にアピール(自身を誇り)する」方式を回復して、今津昭社長は新規事業に賭ける覚悟を語る。

開始した。きっかけは「リサイクル」を仕出し、再注ぎ可能なものを仕立てた。リサイクルを仕出し、再注ぎ可能なものを仕立てた。リサイクルを仕出し、再注ぎ可能なものを仕立てた。

「安全と環境に優れた再生材」

「知多半島の中にも容積リサイクルなど、先進的な東浦町という土地柄もあって、循環型社会が確立されれば、業種も好調だ。」

加工してできるガラス造粒(サンドウェービング)は透水性が高く、地盤改良工事のバラストや管の埋め戻し材、路床材のほか、グラウンドの水はけを促すのに最適な材料として利用される。「工事に使用する際も天然の砂に比べ、現場での3割程度の安全で、なにより無害なため自然でも安心して利用できる」とその特長に触れる。さらに「浸透性が抜群で、地球温暖化の原因ともなるCO2(カーボン)の削減に効果も期待できる」と環境への効果や、液状化現象の防止にも効果的であると述べる。

国土交通省のNETT(新技術情報提供システム)に登録されているほか、財団法人日本環境協会のエコマーク商品にも認定を受けている。現在は、愛知県が認定するリサイクル関連資材「あいちエコ」認定に向けて活動を推進中だ。

稼働したばかりのプラントには、県内をはじめ周辺の自治体関係者や地元住民らが見学にやってくる。「加工された造粒砂を手に取り、危険性がなく(アレルギーも)安心して使うことができる。ガラスだけでなく、現在では、リサイクルの普及を促すべく、総務部企画開発課・Otonari(03)338800 担当・徳島

### 新生への決意

## チャレンジ続ける地元企業

### 知多編

「この事業の優れている点や、環境を重要視している事業のあり方について時間をかけてもってほしい」といってきた。この地元の企業に受け入れられるように、感じてもらう、事業のすばらしさをアピールして、「これぞ」といってほしい。総務部企画開発課・Otonari(03)338800 担当・徳島